



## 任意後見受任者(人)の職務を適正に行なうために。



「身上監護手帳(案)」

成年後見(法定後見)に対する世間の目が厳しくなっています。このことは、成年後見人の不正や使い込み、「身上監護」をないがしろにしていることに原因があります。この問題は、制度施行以来のテーマとなっているにもかかわらず、未だ解決の糸口すら見つかっていないように思えます。

その一方で自己決定権が尊重される「任意後見」の利用者が増えています。このことは喜ばしいことですが、後見職務が開始されれば、成年後見人(法定後見人)がかかえている問題と同様のことが任意後見人にも起こらないとも限りません。

## 「身上監護」に見合った「財産監理」を実現する。

先日、「ハロー!メッセージ」をいただいた堀田力弁護士も、仰っておられました。後見職務は先ず「身上に配慮」することが重要です。

その意味で、身上に見合ったお金が支出されることが当然なのですが、なかなかマッチングがうまくいかないように見受けられます。

私ども協会では、この課題を解決するために、支出の整合性を可視化して、委任者の信頼を得ることと、複雑な職務をシンプルにして、受任者の負担を軽減するシステムをプランすることにいたしました。このことを実現するには、なんとと言っても現場の生声を拾い上げ、システムに反映しなければなりません。

## 生声第一弾!小原サポーターに聞く。

「任意後見サポーター®」の小原恵子さんは、看護師と介護支援専門員の資格を持つ方です。

現在は訪問看護分野でご活躍ですが、いただいた生声は全て重要なものでした。

最も注目した点は、“ケアマネと後見人の意思疎通不足”です。

これでは身上に見合ったお金の支出がむずかしいのは当然ですね。その他にもハードルはたくさんありますが、ひとつひとつ解決方法を見い出して、後見職務のお手本となるようなシステムづくりをしてまいりたいと思っています。

小原恵子さん、ありがとうございました!



文責 佐々和亮

小原恵子さま(右)と事務局の秋元横浜にて。

特定非営利活動法人

# 任意後見利用促進協会®